



STEP 4

| 外部有識者とのダイアログ |

帝人グループのCSR課題に関するマテリアリティの特定プロセスと抽出課題について、CSR最高責任者が外部有識者との対話を行いました。

■ 有識者からのご指摘

社会課題へと視点を広げ、同時に課題の細分化が有効となる

フレームワークは非常にロジカルで、ポジティブな影響も抽出した点が秀逸です。さらには、これまでの取り組みの延長だけでなく、その他の社会的課題からの視点も加えていただきたい。また、課題は細分化したほうが、KPIに結び付けられ、経営に具体的に反映しやすくなります。より多くの関係部署を巻き込み、精度と意識を高めていくことが重要だと考えます。

LRQAジャパン 事業開発部門長 富田 秀実



企業の「世界観」と将来ビジョンの明示を



分析・整理した社会課題を企業としてどう認識しているか。報告書には「世界観」と将来ビジョンを言語化し、メッセージとして打ち出すことが必要です。そして、未来をどのように描き、それに向けてどのように取り組んでいくかのストーリー性も重要です。そこにおいては、たとえば「幸せ」の観点からCSRを考えてもいい。見えない世界の見える化を期待します。

コモンズ投信(株)会長 渋澤 健

グローバルな価値創造に向けて、長期的な理念とコミットメントを打ち出す

特定のプロセスは大変素晴らしく、特にWhatについて完璧と言えます。気候変動と生物多様性の世界的な二大課題は、グローバル企業や民間によるソフト・ローの役割が大きくなっており、リスクを真剣に考えながら、ビジネス成長につなげていただきたい。そして、長期的に何を目指すのか、信念と経営の方向性の打ち出しは、従業員の士気向上にもつながります。

グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン・ボードメンバー
NPO法人サステナビリティ日本フォーラム代表理事 後藤 敏彦

